

牧草の混播について……その二

採草地における牧草の混播

近藤 隆

記してみよう。

一 採草地用牧草の混播時の特性(競合現象)

近年栄養価が高く蛋白質を豊富に含有している苜蓿牧草や、強健多収の禾本科牧草、また嗜好性の高いもの等、夫々特有な性質を持つ牧草が次々と紹介され、また今迄認められなかった牧草の再認識等もあつて牧草の混播もお互にその長所を生かし、短所を補い、總体的に欠陥の少いように各種牧草が組合わされるようになり、放牧地用、あるいは採草地用として、その造成に関心が深くなつて来つた事は喜ばしい次第である。

それでは牧草混播の組合せに如何なるものが良いか、特に今回は採草地用としての混播例について若干記してみたいと思う。

元来採草地においては、生育期の同一のものを組合わす事が収量の面からも大切な事であるが、一般に牧草の混播に当つて、各牧草間に見られる競合現象によつて収量に差を生じる事が大きいものである。

牧草個々を栽培した時の特性は分つていても数種混播した時に一体どのような特性となるかは混播に当つてぜひ知つておかなければならない大切な事である。そこで北海道農試畜産部において調査された混播時の各牧草間の競合現象についてその大略を

(一) 赤クロバリーにおいては、播種後二三年目になつて最高の収量を示し、混播区の主要構成成員をなすが、それ以後は急激に収量が減じる。これは赤クロバリーの生存年限から見ても当然の事である。

(二) ラデノクロバリーも播種当年から、多収なものとして好評を博し、とくに二年目以降は急激に他牧草を圧倒するに至るが、この傾向を混播される牧草の種類、即ち強健多年性の禾本科牧草(例えばリードカナリーグラス、ケンタッキー三一フェスク、オーチャード、チモシー等)と播種量との関係(禾本科が多くなつた場合等)によつては播種後三(四)年目以降は他牧草に圧倒される場合もある。ラデノクロバリーと他牧草の混播は主に放牧地用として利用されてはいるが、集約経営の場合は採草地用としても良く、栄養価、収量の点からも優秀である。

(三) ルーサン(アルファルファ)は、石灰分の豊富で地下水の低い排水良好な土地では優秀な生育を示すものである。永年生であるので、播種当年は他牧草に圧倒され

勝ちであるが、四(五)年頃には収量が最大となるので、豊富な収量と高い飼料価値から長期の採草地用として再認識すべきものである。

(四) アルサイククロバリーは採草地用として混播される場合は、やや湿潤地において、チモシー、赤クロバリーとの混播が望ましい。次に禾本科牧草では、

(五) オーチャードグラスは二年目以降急

第一表 採草地用牧草混播試験

混播牧草名		項目		当(反)		三年目		四年目		五年目		備考
播種量	播種後	播種量	播種後	播種量	播種後	播種量	播種後	播種量	播種後	播種量	播種後	
赤クロバリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	ルイサン、チ モシーが混在
チモシー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
リードカナリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
アルサイククロバリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
チモシー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
リードカナリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
アルサイククロバリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
チモシー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
リードカナリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
アルサイククロバリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
チモシー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
リードカナリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
アルサイククロバリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
チモシー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
リードカナリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
アルサイククロバリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
チモシー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
リードカナリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
アルサイククロバリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
チモシー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
リードカナリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
アルサイククロバリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
チモシー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
リードカナリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
アルサイククロバリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
チモシー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
リードカナリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
アルサイククロバリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
チモシー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
リードカナリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
アルサイククロバリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
チモシー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
リードカナリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
アルサイククロバリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
チモシー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
リードカナリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
アルサイククロバリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
チモシー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
リードカナリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
アルサイククロバリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
チモシー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
リードカナリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
アルサイククロバリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
チモシー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
リードカナリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
アルサイククロバリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
チモシー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
リードカナリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
アルサイククロバリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
チモシー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
リードカナリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
アルサイククロバリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
チモシー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
リードカナリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
アルサイククロバリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
チモシー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
リードカナリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
アルサイククロバリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
チモシー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
リードカナリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
アルサイククロバリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
チモシー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
リードカナリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
アルサイククロバリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
チモシー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
リードカナリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
メドウフェスク	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	
アルサイククロバリー	一〇五	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五	一四〇	一五五		

圧倒されなく、平均した生育を示すものと
して重宝なものである。

(七) ライグラスは播種当年における生育
が極めて旺盛で他牧草を圧倒する傾向を持
つが、その中ペレニアライグラスは二年
目以降も生存し続けるが漸次草勢を減じ、
他牧草に圧倒されるようになる。しかし赤
クロバリの如き三年目以降に草勢を減じる
種と組合される場合は生育を回復して草勢
を維持する。一般にライグラスは初期の生
育が旺盛なため、他の永年生牧草と混播し
て、その初期収量を補うために利用する事
が出来る。またイタリアンライグラスと組
合されて有利なのはクリムソンクロバリー
で、これは共に一年生のものであり、生長
も開花期もほとんど一致しているの真に
良い青刈飼料や乾草を作る事が出来る。但
しイタリアンライグラスを永年性牧草と混
播するときは多量の種子を用いると他牧草
を圧倒して二年目以降の減収の原因となる
から、多数牧草と混播するときは反当半封
度程度が限度のようである。

(八) トールオートグラスは乾燥地の刈草
地用として利用され、主として赤クロバリー、
バーズフットトレフオイル、ルーサン、オ
ーチャードと混播されるが、トールオート
グラスの播種量をやや多目にすれば競合状
態から見て良い成績を示すものである。

(九) ブロームグラスにおいては、ルーサ
ン、チモシーとの混播では、初年目にプロ
ームグラス、チモシーが旺盛となり、四
五年に至つてルーサンに圧倒されるよう
になる。しかしブロームグラスの播種量をあ

る程度増量すれば、ルーサンとの混播は、
生存利用年限の延長と収量の増加の面から
望ましいものである。

このように各牧草間に見られる競合現象
はその牧草の生存年限、播種さるべき量等
により深い関係有するものである。

二 採草地用の各種混播例

さて前述のような混播時の牧草競合現象
から考へて、夫々適牧草を選択組合して
播種を行うと、能力の
高い採草地が造成され
るわけであるが、参考
のために二―三の事例
を紹介すると、

(一) 北海道中部火山
灰地帯における例
弊社上野幌育種場
における調査成績の一部
では第一表の通りであ
り、これを要約すれば、
肥瘠中庸程度の洪積火
山灰土ではこれらの組
合せで全般を通観する
と、

① 播種当初旺盛な生
育を示すもの。
赤クロバリー、アルサ
イククロバリー、ラデ
ノクロバリー、ペレニ
アライグラス

② 三―四年目に旺盛
な生育をしたもの。

ルーサン、レッドトップ、ケンタッキー
三一フェスク、リードカナリーグラス
③ 播種当初から四―五年に亘つて平均し
た生育を示したもの。
チモシー、オーチャードグラス、トールオ
ートグラス

等に収量期待の区分が出来ると考えられ、
利用年数によつて、この区分を参考として
なるべく数種を組合せ、播種することが有利
と思われる。

第二表 各混播における生草、乾物、粗蛋白質収量
(北農試畜産部) (反当貫)

採草放牧用		採草		用		混播組合せ	播種量 (反当)	生草 四カ年合計	乾物 粗蛋白質
アル サイク クロバ リー	メド ウフ エスキ ア	チ モ シ	ラ デ ノ クロ バ リー	チ モ シ	アル サイク クロバ リー	赤 クロ バ リー	〇・五	七四七三	二四三
赤 クロ バ リー	メド ウフ エスキ ア	チ モ シ	ラ デ ノ クロ バ リー	チ モ シ	アル サイク クロバ リー	赤 クロ バ リー	〇・五	七四七三	二四三
赤 クロ バ リー	メド ウフ エスキ ア	チ モ シ	ラ デ ノ クロ バ リー	チ モ シ	アル サイク クロバ リー	赤 クロ バ リー	〇・五	七四七三	二四三
赤 クロ バ リー	メド ウフ エスキ ア	チ モ シ	ラ デ ノ クロ バ リー	チ モ シ	アル サイク クロバ リー	赤 クロ バ リー	〇・五	七四七三	二四三
赤 クロ バ リー	メド ウフ エスキ ア	チ モ シ	ラ デ ノ クロ バ リー	チ モ シ	アル サイク クロバ リー	赤 クロ バ リー	〇・五	七四七三	二四三
赤 クロ バ リー	メド ウフ エスキ ア	チ モ シ	ラ デ ノ クロ バ リー	チ モ シ	アル サイク クロバ リー	赤 クロ バ リー	〇・五	七四七三	二四三
赤 クロ バ リー	メド ウフ エスキ ア	チ モ シ	ラ デ ノ クロ バ リー	チ モ シ	アル サイク クロバ リー	赤 クロ バ リー	〇・五	七四七三	二四三
赤 クロ バ リー	メド ウフ エスキ ア	チ モ シ	ラ デ ノ クロ バ リー	チ モ シ	アル サイク クロバ リー	赤 クロ バ リー	〇・五	七四七三	二四三
赤 クロ バ リー	メド ウフ エスキ ア	チ モ シ	ラ デ ノ クロ バ リー	チ モ シ	アル サイク クロバ リー	赤 クロ バ リー	〇・五	七四七三	二四三
赤 クロ バ リー	メド ウフ エスキ ア	チ モ シ	ラ デ ノ クロ バ リー	チ モ シ	アル サイク クロバ リー	赤 クロ バ リー	〇・五	七四七三	二四三

(二) 北海道農試畜産部の混播成績
北海道農業試験場畜産部においては火山
灰地の肥瘠中庸の土地で精細な牧草混播試
験を行つてゐるが、その発表成績中採草地
用として優れた成績を取めた組合せを表示
すると第二表の通りである。

以上採草地用の混播例を数組紹介した
が、このような混播例は如何なる土地にも
適用するとはいひ難い。本調査地は何れも
火山灰地のやや寒冷な所であるので、その
地域の氣候条件と土壤の要因とをにらみ合
せて本混播例を基礎として、若干の修正を
加える等の余裕を見るべきであらう。更に
用いられる圃場状態が良否如何によつて
は、基本播種量の何割かの増減も考慮しな
ければならない。放牧地と採草地とは、
夫々利用目的に応じた方法を取るべきで、
採草地の場合は、刈取を早目にする事が再
生のため良く、開花期の一致が収量及び品
質向上の点からも必要であるので、生育期
の同一のものを組合すべきである。したが
つて数年間利用される採草地には、なるべ
く多種類の牧草を組合せる事が増収の重要
なポイントであらう。

最も普通に見られる赤クロバリー、チモ
シー混播あるいは赤クロバリー、オーチャード
グラスの混播は、数年平均した収量を期待
する事が出来るが、その土地の氣候土壤条
件によつては、その組合せも変り、飼料価
値、家畜の嗜好性の面から考へても、また
牧草の混播という觀念のマンネリズムから
の脱却からしても、他の新しい組合せも大
いに利用して見たいものである。

(雪印種苗・上野幌育種場)